

第8回定例岡山県教育委員会議事録

- 1 日 時 令和6年8月2日(金)
開会14時45分 閉会15時48分
- 2 場 所 教育委員室
- 3 出席者
- | | |
|--------------|-------------|
| 教育長 | 中村 正芳 |
| 委員(教育長職務代理者) | 田野 美佐 |
| 委員(教育長職務代理者) | 梶谷 俊介 |
| 委員 | 松田 欣也 |
| 委員 | 上地 玲子 |
| 委員 | 服部 俊也 |
| 教育次長 | 國重 良樹 |
| 教育次長 | 田中 秀和 |
| 学校教育推進監 | 室 貴由輝 |
| 教育政策課 | 課長 小林 伸明 |
| | 副課長 中江 岳 |
| | 総括副参事 滝澤 容彦 |
| 教職員課 | 課長 西林 哲郎 |
| 高校教育課 | 課長 鶴海 尚也 |
| 義務教育課 | 課長 苅田 直樹 |
| 特別支援教育課 | 課長 江草 大作 |
- 4 傍聴の状況 1名
- 5 附議事項
- (1) 令和6年度末校長・教員等人事異動要綱について
 - (2) 公立学校長の人事異動について
 - (3) 令和7年度使用教科用図書の採択について
- 6 報告事項
- (1) 令和6年度全国及び岡山県学力・学習状況調査結果の概要について
- 7 その他

8 議事の概要

開会

非公開案件の採決

(教育長)

本日の議題の審議に入る前に、議題の公開の可否について決定したい。本日の議題のうち、附議事項(2)は人事案件であるため、附議事項(3)は教育行政の公正を確保する必要があることから、教育委員会会議規則第12条に基づき、非公開とするよう発議する。

委員から、議題を非公開とする発議はないか。

(委員全員)

(特になし)

(教育長)

この発議は、討論を行わずにその可否を決定することとなっているので、直ちに採決に入る。附議事項(2)附議事項(3)は、非公開とすることに賛成の委員は挙手願う。

(委員全員)

挙手

(教育長)

全会一致により、本案件は非公開とすることに決した。

附議事項(1) 令和6年度末校長・教員等人事異動要綱について

- ・教職員課長から資料により一括説明

(教育長)

これより採決に入る。議第13号について、原案に賛成の委員について挙手を願う。

(委員全員)

挙手

(教育長)

全会一致により、議第13号は原案のとおり決した。

報告事項(1) 令和6年度全国及び岡山県学力・学習状況調査結果の概要について

- ・義務教育課長から資料により一括説明

(委員)

岡山県は、小学校の学力が弱いと以前から言われており、今回も改善されなかったことは不思議である。先ほど説明いただいたように抽象的な問題への積み上げ知識が積みきれていないのか。あるいは、直近の学習した問題に引きずられ、過去に学習した内

容を忘れてしまい、誤答をしてしまうのか。繰り返し学習し、学んだ知識を忘れないことが重要だと考える。

抽象的な課題のような、文章を読み、想像し、回答を導く問題については、想像力が必要である。もっと言えば、想像力とは、例えば色々な本を読み、そこからイメージ化し、自分で理解していく力である。

なぜ岡山県の児童だけが弱いかは分からないが、C B Tになってからどうなるのかと思う。立体物の問題については、動くこともせず、イラストのままなのか。

デジタル教科書では、立体物が自動で動くことが当たり前になっていく中で、平面のデジタル上に表示されているものがイラストのままであれば、それを想像して動かすようなやり方を日頃の授業の中でも教えていく必要があるのではないかと。

(義務教育課長)

小学校の算数について、不思議に思っている点がある。それは、正答率40%以下の割合が、中学校1年生で下がっていることである。

小学校を卒業するまでに、振り返りをしっかりさせていると思われる。

しかし、小学校の教員は、持ち上がりをしないし、学級担任のため、系統立てて学習させると言った考えになかなかならない。

若い教員が増えたことに加え学校規模が小さくなっており、学校規模が大きい学校であれば、複数の教員で学び合えるが、小規模の学校で難しいことから、小規模の学校同士の連携や授業研究ができるようなことを、授業改革推進チームを活用しながらやっていきたい。

C B Tの問題であるが、国において期間実施を来年度・再来年度にかけて実施する予定である。今現在、具体的な問題は示されていないが、動画等が導入される予定になっている。

当課としては、どの程度回線に負荷がかかるのか、県立中学校・中等教育学校において県調査をC B T方式で実施した。市町村においても、県内1,000名程度で予備調査ができるよう最終的な調整を行っている。

また、算数における課題として、概念をどう積み上げていくかがある。

小学2年生で掛け算、小学校3年生で割り算、小学校4年生で小数と分数が教えられる。小数や分数の掛け算、割り算は単純に大きくなったり、小さくなったりしない。単に計算の答えを出すやり方ではなく、量的概念をどう教えていくのかが重要であるが、一朝一夕でできることではない。時間をかけながら、教員にもしっかりと理解させ、1人1人のつまずきに対応できるようにしなければならない。

(委員)

どこでつまずいているか個別に見えるとのことだが、説明資料を見ると、市町村によってばらつきがある。これに対して、市町村教委に対して個別にフィードバックを実施していると思っただけ。

(義務教育課長)

市町村教委においては、自治体全体と各学校が見えるようになっている。

(委員)

個人の結果が見えるのか。誰がどこでつまずいているのか特定できると思ってよいか。

(義務教育課長)

よい。特に県調査については、経年で追えるようになっている。

津山事務所管内において調査をさせた結果、つまずいている児童が多い学年を、採用されて間もない経験の浅い教員が教えているケースが多かった。

当課としては、今までこのつまずいている領域まで戻り、分かるまで教えればよいと思っていたが、それだけでは十分でなくて、先ほどの問題のように、なぜ子どもたちが間違っているのかを各学校の教員が把握できるよう、市町村教委の指導主事を集めた際に、夏休みの研修等でどう指導助言するのか研究をさせたところである。

(委員)

生徒のつまずきなのか。教員のつまずきなのか。教員の指導力不足によるつまずきについては対応していると思ってよいか。

(義務教育課長)

教員の指導力不足によるつまずきの解消に向けて努力しているところである。

(委員)

1日1時間以上勉強している割合が市町村によってばらつきがあるのはなぜか。

(義務教育課長)

1時間以上の時間には、塾の時間も含まれており、休み時間に宿題を終わらせている時間等も含めて、必ずしも正確に回答しているかは不明である。端末にAIドリル等を各自自治体が導入しており、誰がどの程度使用しているか把握できる。

アクションプランに基づく学校訪問を実施した際、同席している研究主任等に、宿題はどういった狙いで実施しているか。家庭学習＝宿題＋自主学習と捉えているが、宿題で身につけさせたい力はなにか。自主学習でつけさせたい力はなにか。といったことを聞いている。しかし、学力的に厳しい児童に対する自主学習についてもきめ細かいサポートが必要であり、サポートツールについては県教委で準備する予定である。

(委員)

学習状況調査の回答方法は全て端末か。

また、それぞれの端末がどの程度活用されているのかは、分かるのか。

(義務教育課長)

学習状況調査の回答は全て端末で行っている。

また、県教委が提供している小学校の単元別の問題集の活用状況については、全て把握しており、市町村教委に情報提供をしている。

(委員)

勉強時間と成績がリンクしている自治体もあれば、リンクしていない自治体もあるがどう解釈すればよいか。

(義務教育課長)

県全体を見れば、学習時間が1時間以上2時間以内の子どもたちが正答率は1番高い。

今回も1時間以上の割合は、小学校では全国平均を上回り、中学校では下回っているが、結果を見ると異なっている。

正確な理由は分からないが、小学校の丁寧な指導の積み上げを、中学校において鍛えたことで、結果が出てきていると思っている。しかし、圧倒的に問題の演習量が不足していると思っており、市町村教委とも確認をしている。

以 下 、 非 公 開

閉会